

# としょかんだより

みなさんは「節分」や「立春」などの言葉の意味を知っていますか。2月4日は二十四節気の立春です。暦のうえでは春ですが、まだまだ厳しい寒さは残るものの日増しに気温が上昇し、春のおとしれを感じさせる季節でもあります。今回は、学校図書館にある『総合百科事典ポプラディア第三版』よりそれらの言葉の意味を紹介しします。



## 節分(2月3日)

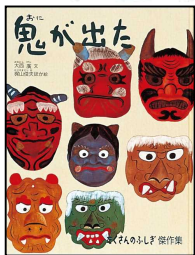
季節の変わり目。立春、立夏、立秋、立冬の前日をさすが、とくに立春の前日をさすことが多い。立春の前日の節分は、現在の暦の2月3日ごろにあたる。旧暦では、立春を1年のはじまりとしたため、その前日の節分は、大みそかにあたった。この日には、鬼がやってくるのをふせぐため、ヒヤギの枝にイワシの頭をさしたものを門口において、日暮れに豆をまく習慣があった。現在でも豆まきは、神社や家庭でおこなわれている。

### \*豆まき

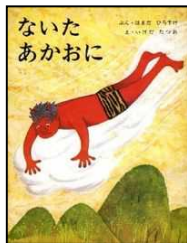
節分の夜に、災いを追いはらい福をよぶために、いり豆(いったダイズ)をまく行事。豆打ちともいう。豆をまくときに「鬼は外、福は内」ととなえることが多い。節分はもともと、悪鬼や流行の病気を追いはらう宮中の年中行事のひとつで、平安時代にはじまった。その後、豆をまいて鬼を追いはらう中国の風の風習がとり入れられ、室町時代のころから民間にも伝わっていった。現代では、各家庭でおこなわれてるほか、神社や寺院などでも、多くの人を集めておこなわれている。

『総合百科事典ポプラディア第三版』より

## 鬼が出てくるお話を紹介します！



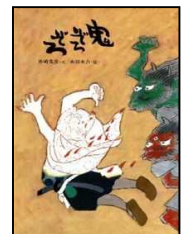
『鬼が出た』  
おおにしひろし 文  
大西 廣/文  
福音館書店



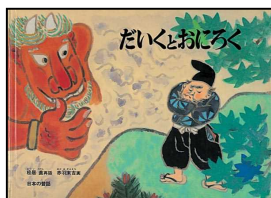
『ないたあかおに』  
はまだひろすけ 文  
かいせいしゃ 偕成社



『落語絵本おにのめ』  
かわはたまこと 著  
川端 誠/作  
クレヨンハウス



『鬼そろそろ』  
ふなきよしひこ 文  
舟崎 克彦/文  
偕成社



『だいくとおにのよく』  
まついただし さいわ  
松居 直/再話  
ふくいんかんしょてん 福音館書店



『おにたのぼうし』  
あまんきみこ 文  
ポプラ社



としょかん

# 図書館からのお知らせ

ねんせいへんきやくさいしゅうび  
**6年生返却最終日・・・2月27日(金)**

ねんせいかしだしさいしゅうび  
**1～5年生貸出最終日・・・2月27日(金)**

かしだしさいしゅうび  
**貸出最終日までは、ひとり5冊借りることができます。**

ふだんか ほん  
**普段借りない本にもチャレンジしよう！**

新しい本が入りました！

NEW



げすいどう  
『下水道のサバイバル1』  
ポドアルチング  
/著  
あさひしんぶんしゅうばん  
朝日新聞出版



『パンダのおさじとふりかけパンダ』  
しばた 柴田ケイコ/作  
ポプラ社



『おにのパンや』  
つかもと 塚本やすし/作  
ポプラ社



『どっちがどっち？くらべてみように  
てい動物』  
ニック・クラプトン  
/監修  
かんしゅう  
BL出版



『おすしがすすぎすぎて』  
サトシン/作  
Gakken



『ねこホテル』  
ふくべあきひろ/作  
PHP研究所



『じごく小学校1～5』  
ありた 奈央/作  
ポプラ社



『まどのそと』  
きのしろう 佐野史郎/作  
岩崎書店



『まてないの』  
ヨシタケシンスケ  
/作  
ブロンズ新社



『10歳から使っ  
てほしいお金と  
サービス大事典』  
井出英策/著  
せいぶんどうしんこうしゃ  
誠文堂新光社



『ぼくのはじまっ  
たばかりの人生  
のたぶんわすれ  
ない日々』  
イーサン・ロング  
/作  
すずき出版



『あやしい  
ジュース』  
ほりぐちじゅんこ さく  
堀口順子/作  
いわさきしよてん  
岩崎書店



『ぼくの  
がっこう』  
すずき 鈴木のりたけ/作  
けんきゅうしょ  
PHP研究所



『はまったら抜け  
だせない！？  
食虫植物』  
たなべなおき かんしゅう  
田辺直樹/監修  
いわさきしよてん  
岩崎書店

